

和歌山信愛女子短期大学 2023 年度FD活動報告書

2024 年6月

FD・教学 IR 委員会

目次

目次	1
I. 目的	2
II. FD 研修会	3
1) 第 1 回FD研修会	3
2) 第 2 回FD研修会	9
III. 授業の相互参観	11
1) 概要	11
2) 相互参観報告書	12
生活文化学科 生活文化専攻	13
生活文化学科 食物栄養専攻	17
保育科	21
IV. 授業評価とティーチングポートフォリオ	26
1) 授業評価	26
2) ティーチングポートフォリオ	26
3) 様式:	27
4) 専任教員のティーチングポートフォリオ	29

I. 目的

本報告書は、和歌山信愛女子短期大学(以下、本学という。)のFD・教学 IR 委員会規程に基づき、教職員の能力の保障と開発を目的に、2023 年度に行われたFD(ファカルティ・ディベロップメント)活動について報告するものである。

2023 年度における本学の FD 活動のテーマは、『データ利活用による授業の質の向上』である。このテーマに基づき、教員の教育能力向上は図るために今年度行った FD 活動は以下の通りである。

- ・ 2 回の FD 研修会
- ・ 授業の相互参観
- ・ 学生による授業評価とティーチングポートフォリオの提出

II. FD 研修会

1) 第 1 回FD研修会

日時:2023 年 8 月 28 日(月) 10:00~11:30

場所:1309 多目的コンピュータ室

内容:アセスメントの活用方法について

講師:株式会社 学びと成長しくみデザイン研究所 桑木 康宏 氏

出席:教員 24 名(専任のみ) 事務職員 2 名

欠席:専任教員 3 名

【出席簿名簿】

FD研修出欠 (2023/8/28 10:00~11:30)

生文	チェック欄
伊藤先生	欠
芝田先生	✓
勝本先生	欠
西出先生	✓
岡井先生	✓
中西先生	✓
森岡先生	✓
山本先生	✓
成田先生	✓
野志先生	✓
雨夜先生	✓
堀江先生	✓
若林先生	✓
真砂先生	✓
藪下先生	✓
小田先生	欠

保育	チェック欄
井澤先生	✓
小笠原先生	✓
小滝先生	✓
岡崎先生	✓
今西先生	✓
桑原先生	✓
渡辺先生	✓
木村先生	✓
金谷先生	✓
桜井先生	✓
仲谷先生	✓

事務
榎本 ✓
宮下 ✓

【研修会資料】

アセスメント活動への活用法

～ 授業レベル～

1. 概要

日 時	2023年8月28日月曜日 10:00-11:30
アクセスURL	

2. 内容

ゴールイメージの再確認	<p>資料_20230828_...pdf 1.2 MB</p> <p>→2022年8月29日にはカリキュラムレベルのアセスメントを実施 →本日は授業レベルのアセスメント活動をご紹介します</p>
授業レベルの点検法	<p>■ 本年度の科目：ダッシュボードで対象科目の「授業分析」をクリック</p>

AsM sample大学 teacher001 園田 よし美 ログアウト

ダッシュボード | 未読コメント | なりませログイン

前回ログイン: 約2時間前 (2022/08/09 11:44:26)

担当学生 (当年度)

クラス担任	基本検索	科目達成度	DP達成度	学習意識	学習計画と振り返り
ゼミ担任	基本検索	科目達成度	DP達成度	学習意識	学習計画と振り返り
その他	基本検索	科目達成度	DP達成度	学習意識	学習計画と振り返り

担当授業 (当年度)

2022年度 前期

住居・建築設計実習1 (入力状況 / 授業分析)	基本検索	科目達成度	DP達成度	学習意識	学習計画と振り返り
住生活論 (入力状況 / 授業分析)	基本検索	科目達成度	DP達成度	学習意識	学習計画と振り返り
造園表現設計実習 (入力状況 / 授業分析)	基本検索	科目達成度	DP達成度	学習意識	学習計画と振り返り
福祉環境計画学 (入力状況 / 授業分析)	基本検索	科目達成度	DP達成度	学習意識	学習計画と振り返り
住居・建築計画学1 (入力状況 / 授業分析)	基本検索	科目達成度	DP達成度	学習意識	学習計画と振り返り

2022年度 後期

西洋建築史 (入力状況 / 授業分析)	基本検索	科目達成度	DP達成度	学習意識	学習計画と振り返り
住居・建築計画学2 (入力状況 / 授業分析)	基本検索	科目達成度	DP達成度	学習意識	学習計画と振り返り

①参照したい科目の「授業分析」をタップ

■ 昨年度以前の科目：授業検索で対象科目を検索

検索する授業範囲を指定します。(権限により検索できる範囲が異なります)

年度を指定して科目検索を行います。教員の場合は、担当科目のみ表示されます。

AsM sample大学 gyrr6 中村 六海 ログアウト

ダッシュボード | 担当授業

2020年度 | 学期 | 科目コードまたは名称 | 授業コードまたは名称 | 到達目標 | 履修者がいる

検索

年度	開講学期	科目コード	科目名	授業コード	授業名	評価
2020	後期	U265350	アートマネジメント論	U260201	U260201	到達目標別評価 入力状況 授業分析 授業アンケート 授業の向上方策
2020	後期	U265590	総合社会学基礎演習	U265521	【メディア・社会心理クラス】	
2020	後期	U265590	総合社会学基礎演習	U265524	U265524	

3-4 授業分析

★ 到達目標別評価
入力状況
授業分析
授業アンケート
授業の向上方策

選択肢が表示されます。

要注意学生への
対処

①要注意学生にはいくつかのタイプがあります

	<div style="text-align: right; margin-bottom: 10px;">  </div> <p>参考：中退予防_シンドローム</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th colspan="12">2015年</th> <th colspan="3">2016年</th> </tr> <tr> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th><th>6</th><th>7</th><th>8</th><th>9</th><th>10</th><th>11</th><th>12</th> <th>1</th><th>2</th><th>3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="15" style="text-align: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 初期型(春学期から低単位) 失速型(秋学期以降に低単位) </div> </td> </tr> <tr> <td colspan="15" style="text-align: center;"> <div style="display: flex; justify-content: center; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 突発型(家計の急激な悪化、妊娠・結婚、友人関係の悪化、等) </div> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">中退のパターン</td> <td colspan="14" style="text-align: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 入学 </div> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">シンドローム</td> <td colspan="14" style="text-align: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> <div style="width: 30%;"> <p>昼夜逆転</p> <p>学習習慣・登校習慣の欠如</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>GW</p> <p>バイトと両立</p> <p>夏休み</p> <p>5月病</p> <p>怠学</p> <p>孤立</p> <p>不本意入学</p> <p>無目的入学</p> <p>履修選択ミス</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>学祭</p> <p>冬休み</p> <p>春休み</p> <p>友人関係の深化</p> <p>人間関係の固定化</p> <p>適性不安</p> <p>将来不安</p> <p>成績評価</p> <p>専門科目の高度化</p> <p>履修選択ミス</p> <p>定期試験</p> <p>進級判定</p> </div> </div> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">予防策</td> <td colspan="14" style="text-align: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: small;"> 予防策A 予防策B 予防策C 予防策D 予防策E 予防策F </div> </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">対症療法</td> <td colspan="14" style="text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; font-size: small;"> 早期発見・早期支援のシステム構築 </div> </td> </tr> <tr> <td colspan="15" style="background-color: #ffffcc; text-align: center; font-weight: bold; font-size: small;"> 低出席・低単位に陥った学生への対症療法ではなく、低出席・低単位学生の発生を予防する </td> </tr> <tr> <td colspan="15" style="font-size: x-small;"> Copyright ©2023 L&D System Design Lab, Inc. all rights reserved. 出典：2015年5月「教育の質保証」実践セミナー セッション② 5 NPO法人NEWVERY理事長/日本中退予防研究所所長 山本 繁 </td> </tr> </tbody> </table>	2015年												2016年			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 初期型(春学期から低単位) 失速型(秋学期以降に低単位) </div>															<div style="display: flex; justify-content: center; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 突発型(家計の急激な悪化、妊娠・結婚、友人関係の悪化、等) </div>															中退のパターン	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 入学 </div>														シンドローム	<div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> <div style="width: 30%;"> <p>昼夜逆転</p> <p>学習習慣・登校習慣の欠如</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>GW</p> <p>バイトと両立</p> <p>夏休み</p> <p>5月病</p> <p>怠学</p> <p>孤立</p> <p>不本意入学</p> <p>無目的入学</p> <p>履修選択ミス</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>学祭</p> <p>冬休み</p> <p>春休み</p> <p>友人関係の深化</p> <p>人間関係の固定化</p> <p>適性不安</p> <p>将来不安</p> <p>成績評価</p> <p>専門科目の高度化</p> <p>履修選択ミス</p> <p>定期試験</p> <p>進級判定</p> </div> </div>														予防策	<div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: small;"> 予防策A 予防策B 予防策C 予防策D 予防策E 予防策F </div>														対症療法	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; font-size: small;"> 早期発見・早期支援のシステム構築 </div>														低出席・低単位に陥った学生への対症療法ではなく、低出席・低単位学生の発生を予防する															Copyright ©2023 L&D System Design Lab, Inc. all rights reserved. 出典：2015年5月「教育の質保証」実践セミナー セッション② 5 NPO法人NEWVERY理事長/日本中退予防研究所所長 山本 繁														
2015年												2016年																																																																																																																																											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3																																																																																																																																									
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> 初期型(春学期から低単位) 失速型(秋学期以降に低単位) </div>																																																																																																																																																							
<div style="display: flex; justify-content: center; border: 1px solid black; padding: 2px;"> 突発型(家計の急激な悪化、妊娠・結婚、友人関係の悪化、等) </div>																																																																																																																																																							
中退のパターン	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 入学 </div>																																																																																																																																																						
シンドローム	<div style="display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> <div style="width: 30%;"> <p>昼夜逆転</p> <p>学習習慣・登校習慣の欠如</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>GW</p> <p>バイトと両立</p> <p>夏休み</p> <p>5月病</p> <p>怠学</p> <p>孤立</p> <p>不本意入学</p> <p>無目的入学</p> <p>履修選択ミス</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>学祭</p> <p>冬休み</p> <p>春休み</p> <p>友人関係の深化</p> <p>人間関係の固定化</p> <p>適性不安</p> <p>将来不安</p> <p>成績評価</p> <p>専門科目の高度化</p> <p>履修選択ミス</p> <p>定期試験</p> <p>進級判定</p> </div> </div>																																																																																																																																																						
予防策	<div style="display: flex; justify-content: space-around; font-size: small;"> 予防策A 予防策B 予防策C 予防策D 予防策E 予防策F </div>																																																																																																																																																						
対症療法	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; font-size: small;"> 早期発見・早期支援のシステム構築 </div>																																																																																																																																																						
低出席・低単位に陥った学生への対症療法ではなく、低出席・低単位学生の発生を予防する																																																																																																																																																							
Copyright ©2023 L&D System Design Lab, Inc. all rights reserved. 出典：2015年5月「教育の質保証」実践セミナー セッション② 5 NPO法人NEWVERY理事長/日本中退予防研究所所長 山本 繁																																																																																																																																																							
<p>授業改善への活用に向けて</p>	<p>②所属組織における発生しやすい類型とその把握しやすいタイミングを共有し、該当する状態に陥らないようにする対策を検討することが考えられます。</p> <p style="color: red;">→気になる学生を共有する仕組みのルール化からであれば始めやすい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケート結果を授業改善に生かすためには、どの設問を、どのような改善に生かしたいかを考えて設問設計を行う必要があります。 ・設問は次の順番で検討することが考えられます。 <ol style="list-style-type: none"> ①どのような授業を良い授業というかを定める ②期待する授業になっているかを学生に教えてもらうためにはどのような問いが良いかを考える <p><設問例></p> <p style="font-size: x-small; margin-top: 20px;">資料_授業アンケ...pdf 118.8 KB</p>																																																																																																																																																						
<p>質問</p>																																																																																																																																																							
<p>事後アンケート</p>																																																																																																																																																							

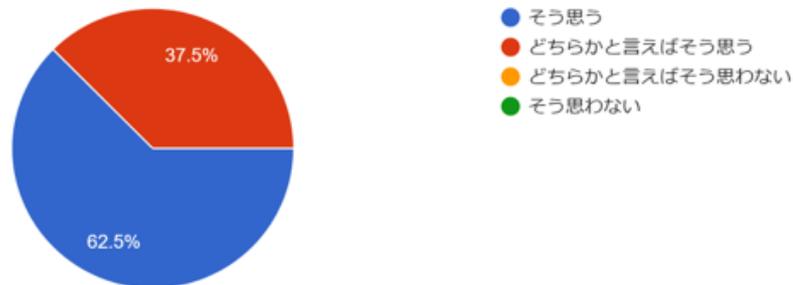
<補足：カリキュラムレベルでのアセスメント活動への活用法>

<p>アセスメント活動の実施結果をアセスメントする</p>	<p>・ 前回のアセスメント活動の結果を点検 WS_20220829_アセスメント実施報告書_保育科.docx WS_20220829_アセスメント実施報告書_食物栄養.docx WS_20220829_アセスメント実施報告書_生活文化.docx</p> <p>・ 2回目以降のアセスメント活動では次のようなフォーマットにすると検討を進めやすいことが多いです。(2ページ目に掲載)</p> <p style="text-align: center;">セッション②...docx 56.1 KB</p>
<p>前提</p>	<p style="text-align: center;">新たな時代を見据えた質保証システムの改善・充実について（審議まとめ）概要</p> <p style="text-align: right;">令和4年3月18日 中央教育審議会大学分科会質保証システム部会</p> <p>背景</p> <p>○ 「大学設置基準」「大学設置認可審査」「認証評価」「情報公表」という我が国の公的な質保証システムは、事前規制型と事後チェック型それぞれの長所を組み合わせた形で設計されており、一定程度機能している。</p> <p>○ しかしながら、3つのポリシー（入学者受け入れの方針、教育課程編成・実施の方針、卒業認定・学位授与の方針）に基づく教育の実質化を進める必要があるという指摘や、グローバル化やデジタル技術の進展に対応する必要があるという指摘、新型コロナウイルス感染症拡大を契機とした遠隔教育の普及・進展を踏まえた対応を行う必要がある等の指摘がある。</p> <p>⇒ 大学における国際通用性のある「教育研究の質」を保証するため、質保証システムについて、 ① 最低限の水準を厳格に担保しつつ、 ② 大学教育の多様性・先進性を向上させる方向で改善・充実を図っていくことが求められている。</p> <p>質保証システムで保証すべき「質」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育法の規定に照らす「教育研究の質」 ・ 「学生の学びの質と水準」とともに、教育と研究を両輪とする大学の在り方を実現する観点からは、持続的に優れた研究成果が創出されるような研究環境の整備や充実等についても一定程度確認する必要がある。 <p>改善・充実の方向性</p> <p>2つの検討方針：① 学修者本位の大学教育の実現 ② 社会に開かれた質保証の実現</p> <p>4つの視点：① 客観性の確保 ② 透明性の向上 ③ 先導性・先進性の確保（柔軟性の向上） ④ 厳格性の担保</p> <p>※それぞれの視点は相互関係にあるものではなく、相互に関連し合うものであることに留意が必要</p> <p>(1) 大学設置基準・設置認可審査</p> <p><改善・充実の方向性> 【学修者本位の大学教育の実現】 ○ 学位プログラムの3つのポリシーに基づく編成、学位プログラムを基礎とした内部質保証の取組、内部質保証による教育研究活動の不断の発展しが求められることを明確化。 【客観性の確保】 ○ 分散して規定されている教員や事務職員、各種組織に関する規定を一体的に再整理。 ○ 「一の大学に限り」という「専任教員」の概念を「基幹教員」（仮称）と改め、設置基準上最低限必要な教員の数の算定にあたり一定以上の授業科目を担当する専任以外の教員について一定の範囲まで算入を認める。 ※専任教員の算定方法等については別途検討。 ○ 「図書」「雑誌」等を電子化・IT化を踏まえた規定に再整理。 ○ 大学設置基準上、教育を補助する者について明示的に規定。 ○ 実務家教員の定義の明確化や大学名称の考え方を周知。 等 【先導性・先進性の確保（柔軟性の向上）】 ○ 「講義・演習・実習・実験」の時間区分の大括り化や単位当たり時間は標準時間であることの明確化など単位制度運用の柔軟化。 ○ 機関として内部質保証等の体制が機能していることを前提とした教育課程等に係る特例制度の新設。 <small>例） 教員専任による指導体制向上型（CO-OP型）、単位互換上限（CO単位）、授業科目の自由開講の奨励、校舎・校舎設備基準等</small> ○ 校舎等施設は、多面的な使用等も想定し、機能に着目した一般的な規定として見直し。 ○ スポーツ施設等を各大学の必要性に応じて整備できるよう見直し、等</p> <p>(2) 認証評価制度</p> <p><改善・充実の方向性> 【学修者本位の大学教育の実現】 ○ 内部質保証について、自己点検評価結果による改善を評価し公表する形へと充実。 ○ 学修成果の把握・評価や、研究環境整備・支援状況の大学評価基準への追加。 【客観性の確保】 ○ 多様性に配慮しつつ認証評価機関の質保証に資する取組の推進。 【透明性の向上】 ○ 各認証評価機関の評価結果の一貫性を担保した公表の検討。 【先導性・先進性の確保（柔軟性の向上）】 ○ 内部質保証の体制・取組が特に優れた大学への双方向評価の弾力的措置。 ○ 法令適合性等について適切な情報公表を行っている大学への法令適合性等に関する評価項目や評価手法の簡素化などの措置。 等 【厳格性の担保】 ○ 不適合の大学の受審期間を短縮化（例：3年）。 等</p> <p>(3) 情報公表</p> <p><改善・充実の方向性> ○ 学修者本位の大学教育の実現 ○ 大学の情報公表の取組状況を確保。 ○ 「大学入学者選抜に関すること」等を学校教育法施行規則に規定する各大学が公表すべき項目に追加。 等</p> <p>(4) その他の重要な論点</p> <p><改善・充実の方向性> 【学修者本位の大学教育の実現】 ○ 遠隔授業に関するガイドラインの策定 ○ 大学運営の専門職である事務職員等、質保証を担う人材の質保証を向上させる観点から、SD・FDの取組等を把握・周知 【客観性の確保】 ○ 設置認可審査を経て認められた分野の範囲内なら大学の判断で新たな学位プログラムが実施可能であることを周知。 ○ 修業年限は「おおむね4年」の期間を指すものであり、厳密に4年間を指すことを求めるものではないことを明確化。 等 【先導性・先進性の確保（柔軟性の向上）】 ○ 基礎的経費の配分や設置認可申請等における定員管理に係る取組現況について、併行で入学定員に基づく単年度の算定としているものは、収容定員に基づく複数年度の算定へと改める（成績管理の厳格化・明確化と両立が図られるように留意）。 等</p>

■ 2022年8月29日の事後アンケートの結果

本研修会は有意義でしたか。

8 件の回答



<p>本日の研修会の中で気づいたこと、考えたことなど、何でも結構ですので、もし何かございましたらご記載ください。（全体で共有しておきたい事、運営上の改善点などもございましたらお知らせください）</p>	<p>桑木コメント</p>
<p>データは受け取り方で扱いが変わるので、一人で考えずに複数の意見を取り入れることの重要性がグループワークにより再確認できた。</p>	<p>ご評価ありがとうございます。</p>
<p>このシステムで何ができるかすべては把握できませんでしたが、有用に操作するきっかけとして大変有効な研修でした。</p>	
<p>こんなに細かく分析されることが知らなかったので、今後活用していきたいと思います。</p>	
<p>今後、この機能の扱いがどのようになるかわかっていない上での疑問です。 ①受講生が少ない（5人以下のような）授業について、データ解釈やプライバシーの点で、他の授業と同じように評価することに不都合が生じないか疑問に思いました。 ②また集計の際に、評価に単位数をかけるということは、講義科目が実習科目の2倍の比重を持つこととなります。GPAとの兼ね合いかと思いますが、DPの項目によっては、単位数ではなく1週間の授業時間などを掛けた方が、自己評価対教員評価という評価観点に沿うのではないかと感じました。</p>	<p>①：人数の少ない場合は、単純に数値比較ではなく、学生からの定性的なフィードバックとして、自由記述の内容を活用することが考えられます。人数の少ない場合には、授業アンケートへの回答時間をしっかりと取り、学生にフィードバックをしてもらえるようお願いをすることが考えられます。 ②：日本の高等教育が採用する単位制の考え方をベースにした仕組みのため、大学設置基準の矛盾が反映される構造となっていました。昨年9月に大学設置基準側が改正となり、実習科目、講義科目に関わらずその学修負荷量に応じて単位数を柔軟に設定できるようになりました。この機会にぜひ矛盾解消に向けた検討を実施くださいませ。</p>

2) 第 2 回FD研修会

日時:2023 年 12 月 11 日(月) 17:00~18:30

場所:1307 視聴覚室

内容:授業における著作権の取り扱いについて

参加者:教員 23 名(専任 23 名、非常勤 3 名) 事務職員 3 名

欠席者:専任教員 3 名

【出席簿名簿】

第2回FD研修会 出席者名簿

2023.12.11

生文

伊藤先生	✓
芝田先生	✓
勝本先生	✓
西出先生	✓
岡井先生	✓
中西先生	✓
森岡先生	✓
山本先生	欠
成田先生	✓
野志先生	欠
雨夜先生	✓
堀江先生	✓
若林先生	✓
真砂先生	欠
藪下先生	✓

保育

井澤先生	✓
小笠原先生	✓
小滝先生	✓
岡崎先生	✓
今西先生	✓
桑原先生	✓
渡辺先生	✓
木村先生	✓
金谷先生	✓
桜井先生	✓
仲谷先生	✓

非常勤

南先生	✓	
太田先生	✓	オンライン
中澤先生	✓	オンライン

事務

宮下先生	✓
楠木先生	✓
榎本	✓

【研修会資料】(一部抜粋)

その他の著作物

二次的著作物 (第十二条)
 1. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して二次的に著作したものを、
 ・ 元の著作物の内容に改題の趣意がある場合、

複製著作物 (第十二条)
 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、
 ・ 複製されたものの複製 (複製) して複製されたものを、

データベースの著作物 (第十二条の二)
 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) してデータベースで管理し、データベースの著作物のうち、コンピュータ上のデータベースで管理し、複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

→ 複製著作物、複製物の著作物は、著作物の著作権を権利として行使する。

その他の著作物

第十二条の二 (データベースの著作物)
 1. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) してデータベースで管理し、データベースの著作物のうち、コンピュータ上のデータベースで管理し、複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

2. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

3. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

4. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

5. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

6. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

7. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

8. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

9. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

10. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

言語の著作物	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、
音楽の著作物	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、
演劇の著作物	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、
美術の著作物	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、
建築の著作物	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、
映画の著作物	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、
プログラムの著作物	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

著作物、著作権とは

著作権 (権利)
 1. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

2. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

3. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

4. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

5. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

6. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

7. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

8. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

9. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

10. 複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

著作物 著作物

著作権法

著作権法

知的財産

商標権	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、
特許権	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、
商品等表示	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、
地理的表示(GI)	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

「発見又は発明がされた自然の法則又は現象であつて、産業上の利用可能性があるもの」

「発明」は、創作されたものでなければならぬから、発明者が目的を達成して創作していない自然現象 (発見) は、自然現象等の発明は、「発明」に該当しない。しかし、天然物から人為的に単離した化学物質、微生物等は、創作されたものであり、「発明」に該当する。

知的財産

特許権	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、
実用新案権	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、
商標権	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、
著作権	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、
回路配置利用権	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、
育成者権	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、
営業秘密	複製、改題、改訂、編纂、変形、翻案 (ノイズ付など) して複製されたものを、

知的財産基本法

第三条 この法律で「知的財産」とは、発明、実用新案、植物の発育、商標、著作物その他の人の知的活動により生み出されるもの (発見又は発明がされた自然の法則又は現象であつて、産業上の利用可能性があるものを除く。)、商標、商号その他の営業活動に用いられる商品又は役務を表示するもの及び営業秘密その他の営業活動に利用される技術又は営業上の情報をいう。

2 この法律で「知的財産権」とは、特許権、実用新案権、育成者権、商標権、著作権、商標権その他の知的財産に関する法律により定められた権利又は法律上保護される利益に係る権利をいう。

知的財産

メールを送り出すから一か月後

メールを送り出すから一か月後

メールを送り出すから一か月後

著作権

レディ、フライタム、アート

2023.12.11

佐々木 悠

Ⅲ. 授業の相互参観

1) 概要

実施期間:2023 年 12 月 4 日(月)～12 月 22 日(金)

参加教員:専任の全教員(助手を含む)。非常勤教員は任意

対象科目:全授業科目

方法:全教員(助手を含む)が、最低1科目を選んで参観する。参観内容は所定の報告書にまとめて提出する。

生活文化学科 生活文化専攻

記入者氏名: 勝本 泰弘

科目名:情報メディア論	担当者: 伊藤 宏 先生	参観日:2023 年 12 月 21 日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <p>「客観報道と不偏不党」と題しての授業を参観させていただいた。</p> <p>メディア対応授業でもあったので、機器の配置や、出席の取り方等についても参考にさせていただいた。</p> <p>授業の内容においては、客観報道とは何かということについて、1993年のテレビ朝日局長椿氏の発言問題や新聞テレビの報道の基となる情報の主な出どころや実際に情報を得てから読者や視聴者に伝わるまでの何段階かのフィルターの問題点、過去にあった、テレビ朝日の「報道ステーション」に対する政府圧力や NHK「クローズアップ現代」のやらせ疑惑等の具体的事例を題材に、新聞記者であった経験と実績に基づくわかりやすく詳細な解説をしていただいた。</p> <p>1つの授業を行うにあたって、これだけ豊富で具体的な資料の準備をされていることに感服した。また、多くの体験に基づくお話を聞くことができ、100分の授業内容が充実し短く感じられた。</p> <p>この授業を通して、自分自身、新たな知識を得たと同時に、報道されている内容については、やはり熟考して吟味し、把握する部分や、疑うべき視点ももって臨まねばならないことを、授業を通して改めて感じた。</p> <p>自分自身の豊富な知識の獲得に、これからも努めなければならないことと、授業者が自信をもって、そして生き生きとした話しぶりで授業に臨むことの重要性を再認識し、今後の自分の授業にも活かしていきたいと感じた。</p>		

記入者氏名: 中西 淳平

科目名:キャリアの心理学	担当者: 山本 桂子 先生	参観日:2023 年 12 月 13 日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <ul style="list-style-type: none">● 授業の最初は前回のワークシート・小テストの返却と復習をした。● 毎回ワークシートと小テストを実施していて、返却時にワークシートと小テストの内容のまとめや講評を伝えた。● 講評内容によっては、学生の食いつきのよいものがあった。 → ワークシートや小テスト実施後の講評(フィードバック)は学生にとっても興味・関心の高いものである。● 授業はテキスト(本)を使用していた。授業進行は、内容を教員が読み上げ、適宜解説を加え、重要などころには下線を引かせていた。 → 下線を引きなさい、と教員側から指示するだけでなく、学生に重要ポイント(文章)はどこかを聞いてから下線を引かせると、より能動的学修になるか。		

- 授業途中で調べ学習。スマホを活用して、調べさせていた (ICT 活用)。
 - 調べた内容をまとめ、発表させるところまでできれば、なお一層の能動的学修になったと思われる。(ただし、この調べ学習は、内容的にそこまで重要な部分ではなかった)
- 授業の中盤で、今回のワークシートを配付した。テキストにしたがって、各自ワークシートを進めていく (能動的学修)。
- ワークシートは基本的には自分自身と向き合って進めるものようであるが、学生同士で相談しながらでもよさそうである (一部の学生は相談していた)。
- 授業の終わりごろまでワークシートの時間を取り、ワークシートを提出させた。
- ワークシートの提出後に振り返りを実施。授業内容の重要キーワードを図式化して、目で見えてわかる形にして提示していた (ユニバーサルデザイン)。
 - 文章 (テキストの内容) を図式化して、目で見えてわかる形にするのはすばらしい。
- 振り返りの後に小テストを実施 (能動的学修)。図式化したところからの出題だった (穴埋め形式)。
- 授業の最後に小テストを提出させた。

記入者氏名: 雨夜 真規子

所属: 生活文化学科 生活文化専攻

科目名: 日本国憲法	担当者: 奥野 庸己 先生	参観日: 2023 年 12 月 14 日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <p>当該授業を参観した結果、私自身の授業の改善に反映させるべきと思われる点はまったくなかった。強いていえば、反面教師そのものであろう。</p> <p>というのは、授業そのものが完全に崩壊している。まさに授業中の教室 (セシリアホール) はカオスそのものである。学生は、授業開始後も、立ち歩く、食事をする、友人と喋る、化粧をする、寝る等、やりたい放題である。教員はそれを黙認する形で、淡々と講義を進めていくが、ノートをとっている学生はごくわずかであるし、そのような真面目に取り組む学生を、その他大勢の学生の喋り声等が邪魔している状態である。ごくわずかとはいえ存在する真面目な学生が大変気の毒であるし、学校として提供すべきサービスを学生に提供できていないという点で看過できる状況ではない。</p> <p>教員はホワイトボードに「板書」をするが、前のほうに座っている学生にしか見えないような字である。また、学生の理解度を無視して一方的に自身のシナリオ (?) に書いてあることを粛々と話すのみなので、双方向性は一切ない。学生の喋り声がうるさくて、教員の声も十分には届かない。私自身も、カオスぶりに終始圧倒され続け、驚きあきれ、授業の内容はまるで頭に入ってこなかった。上記の3つの観点 (アクティブラーニング、ICT の活用、わかりやすい授業) は完全に無視された授業である。</p> <p>相互参観の趣旨は、他教員の授業から自身の授業に反映すべき点を見出し、自身の授業を改善することであるところ、このような記述内容はその趣旨に悖るものであることは理解する。しかし、私は本学専任教員として、当該授業をこのまま継続して実施することは学生に利益に反しているし、本学とし</p>		

でも学生に約束したサービスを提供することができていないと考える。実に憂慮すべき、かつ、本学として速やかに改善すべき深刻な事態である。

当該授業に関しては、本学として実態を把握し、速やかに対処されることを切に望む。それをしないとすれば、教育機関としての役割を放棄したことになると思料する。

以上

記入者氏名: 成田 仁美

科目名: Web プログラミング	担当者: 中西先生	参観日: 2023 年 12 月 21 日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <p>Web プログラミングの授業構成は大きく3部で構成されていた。すなわち①前回の復習②本日のメインテーマ③メインテーマに沿った演習課題であった。参観を通して気づいた点を3部ごとに挙げ、最後に自分自身の授業改善につなげたい事を報告する。</p> <p>① 前時の復習: 約10分</p> <p>前回到作成した「テーブル」について復習されていた。具体的には、パソコン画面を学生に提示しながら、表のタイトル部分を目立たせる方法、太文字、色文字指定する方法など、「テーブル」を作成する過程について、復習を念入りにされていた。先生が実際にプログラムを打ち込んでいる画面を提示しながらわかりやすく説明されていたこと、要点ごとに理解を確認しながら進められていたことが学修支援になっていた。</p> <p>② 本日のメインテーマ; テーブルに線をひき、色を付ける: 約30分</p> <p>今回のメインテーマは、前時に作成した「テーブル」をもとに、「線をひき、色を付け」て、さらに見やすくするためには、どうプログラミングすればよいのか、という内容であった。学生にワークシートを配布し、その手順にしたがって TeraPad に各自で打ち込みをしていくことによって、本日のメインテーマが学べるように授業が進められていた。この段階でも、先生が実際にプログラムを打ち込むプロセスを学生に提示していたので、わかりやすいと感じた。たとえば、線を二重に重ならないようにするための方法、線の種類を変更する方法、色指定の方法を実演されていた。</p> <p>③ メインテーマに沿った演習課題: 約1時間</p> <p>各自でプログラミングする演習課題が設定されていた。お手本と同じような完成図をつくる課題である。それまでの授業で積み重ねてきたプログラミングのデータを変更したり必要なところを追加したりすれば完成できる内容だった。学修内容の理解を深めるのに適している課題だと感じた。また、演習課題に取り組むにあたって、解答例を先生が示されていたので、プログラミングの仕方がわからなくて手がとまっている様子の学生はいなかった。頑張ればできる課題の設定の仕方や支援の方法が上手だと感じた。</p> <p>授業終了5分間で、定期テストについて周知されていた。真っ白の TeraPadにはじめからプログラムを書き込むという能力よりも、現在あるプログラムを変更・追加して目的を達成させる能力の方が現代社会で求められることを周知され、後者の能力をより活かして解く内容のテストであることが示されていた。学</p>		

生が社会に出たときに実際に活用できる場面を想定して学修内容やテストの内容を設定しているところが素晴らしいと感じた。

最後に、自分自身の授業改善につなげていきたい事を三つ報告する。一つ目は、授業の導入部分で前時の復習を念入りにするところである。特に、前時の授業とつながりのある学修内容の場合は要点を絞って、内容の理解を深められるようにしたい。二つ目は、学生の理解を確認しながら進行するところである。学生によって理解度に個人差がみられることもあるため、ICT を活用して視覚的にも理解が深まるように努めていきたい。三つ目は、課題およびテストの工夫である。スモールステップをいくつか設定して、確実に学修内容を深めていけるようにすることや、その課題を確実にクリアする支援について考えていきたい。

記入者氏名： 山本 桂子

科目名:健康管理概論	担当者: 森岡 先生	参観日:2023年12月19日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の冒頭に確認テストを行うことで、知識の定着を狙っている。 ・確認テストをクラスルーム上で行うことで、学生の IT スキル UP が期待できる。また、欠席した学生にも内容を伝えることができる。 ・インターネット上にあるデータを印刷、配付するのではなく、スマートフォン上で確認させることで、情報にアクセスするスキルを鍛えることができる。 ・イラストが多く直感で学べる資料を使用。中高生向けのものも活用。 ・テキストとインターネット上の資料をバランスよく使うことで、学生に飽きさせない流れとなっている。 ・専門的な話ばかりではなく、学生が自分事だと考えられるような事例を示している。 ・テキストの補助資料を作成、学生の理解度が上がる工夫がなされている。 ・学生がメモを取りやすい工夫がされている。 ・終了時には受講による気づきを提出させることで、授業の振り返りを促している。 ・全体的に紙の資料、ICT を活用した資料、いずれかに偏ることなく、学生が色々なスキルを使いながら受講できる工夫がなされている。 		

記入者氏名： 真砂 みづほ

科目名:韓国語	担当者:石橋先生	参観日:2023年12月21日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストにある会話型の例を使って、学生がペアとなりお互いが発音し合い参加出来る環境を作っていた。 ・復習を交えて、学生が前回の内容を覚えているかどうかの確認と、当てるのではなく自発的に発言するのを待つ時間を作っていた。 		

- ・学生が興味のある内容で質問し、発言させていた。
 - ・CD を積極的に使用し、学生が興味を持つような内容で単語などをヒアリング出来ているか確認していた。
- また CD の内容に沿って、文法の説明を行っていた。
- ・国の文化の違いを、テキストの内容に沿って分かりやすく説明されていた。

生活文化学科 食物栄養専攻

記入者氏名： 森岡 美帆

科目名:くらしに生きる数学	担当者: 勝本 泰弘 先生	参観日:2023年12月11日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の授業内容の想起から始まり、学生がスムーズに授業に取り組むことができるようにされていた。 ・数学の問題を解くのは、何十年ぶりであったが、穏やかな話し方で進められる授業は、分かりやすく、机間巡回でそれぞれの学生の進捗状況を確認しながら、考え方のポイントを分かりやすく提示されており、それぞれの学生は、達成感を感じていると推察された。 ・100 分間の授業であったが、短く感じられたのは、ウォーミングアップ問題、基本問題、実践問題、発展内容の説明と授業内容の骨格がしっかりとしていて、それぞれの項目で集中できる授業展開であったことによると考える。 ・ホワイトボードを使用しての説明、プロジェクターを用いての解答の提示、プリントでの解答の提、展開図の配布等、理解度の異なる学生に対して丁寧な対応をされていて、学生は安心感があると推察された。 ・最後に、チャレンジ問題と授業の振り返りを記入するプリントが配布され、復習をする機会が設けられていた。 ・大変参考になる授業であり、理解度合いが異なる学生の対応を自分の授業でも取り入れていきたいと考えている。 		

記入者氏名： 岡井 明美

科目名:くらしに生きる数学	担当者:勝本 泰弘先生	参観日:2023年12月11日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <p>授業の最初に、「ウォーミングアップ問題」を取り入れられていたのがとても参考になりました。楽しく集中できる問題で、学生も興味を持って取り組んでいるように感じました。</p> <p>ウォーミングアップのあと、「基本問題」、「実践問題」と授業の展開や構成、時間配分も適切でそれぞれの解説も丁寧でわかりやすかったです。</p> <p>100 分の時間が短く感じられる授業で、このような組み立てを自身の授業でも取り入れたいと思いました。</p>		

記入者氏名: 芝田 史仁

科目名: 医薬と検査	担当者: 岡井 先生	参観日: 2023年12月20日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <p>参観当日は、学生グループが、これまで学んだ事を基にテーマを決め、調べたことをまとめて発表を行うという形式の授業内容であった。各グループの学生は、事前にパワーポイントを使った発表資料を作成し、10分程度の発表を行っていた。また、発表後は、他のグループの学生や教員と一緒に、発表に用いた資料の課題と改善点について互いに意見を出し合う時間が設けられていた。各グループは、意見交換の中で出されたアドバイスを基に、資料の再修正を行い、次回の授業で発表するということであった。</p> <p>この授業の参観を通して参考になった点は、以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業内容について各自で調べて発表することで、学生の理解が深まっていた。 グループ内で役割分担を決め、連携して発表に取り組むことで、チームワークやリーダーシップ向上につながっていた。 発表のための資料を自分達で準備することにより、学生の主体的な学びが実現できていた。 医薬品に関する学習の中で、他の授業で学んだ内容との関係性に気付き、理解がさらに深まるように配慮がなされていた。 資料の作成や、発表後の他の学生や教員との意見交換を通して、分かりやすく説得力のある資料に必要な要素の理解に繋げており、学生のプレゼンテーション能力向上に資する内容であった。 作成した資料における文献の引用方法など、情報モラルに関する指導も適切に行われていた。 発表内容について、学生間で活発な意見交換がなされる一方、教員は必要最低限に関わり、学生の積極的な授業参加が促されていた。 教員は、学生に建設的な意見の提案を促す一方、学生から出された意見を否定せずに認めることで、学生が自分の考えを述べやすい環境が作られていた。 <p>全体を通して、学生が自ら学びに参加する姿勢が印象的な授業であった。他の教科で学んだ内容がより応用的な専門的知識の深い理解に生かされており、教科間の連携の重要性を実感する。</p>		

記入者氏名: 西出 充徳

科目名: 運動生理学	担当者: 堀江大輔 先生	参観日: R5年12月15日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <p>* 授業は1年生対象の運動生理学に参加した。金曜日9~10時限目の選択授業であるため受講生は少ない。少人数ではあるが、パワーポイントとテキスト、プリントを使用した授業で行われていた。学生達は、私語もなく真面目に取り組んでいた。教員から質問が出されると、指示されることもなく学生達は自発的に返答していた。私の1年生(49名)対象の座学授業では、質問を出して自発的に返答する学生はほとんどいない。こちらから名前を呼んで指名して答えさせているが、この授業では自ら返答しているところ</p>		

ろが新鮮に感じた。この様な状況を作り出しているのは教科担当の授業の工夫と考えられる。その工夫とは、授業ペースにあると考える。つまり、必須、選択授業に拘らず「これも教えなければ・・・。あれも学ばせなければ・・・」とこちら側の焦りと裏腹に、年々変化する学生の理解度を自分が考えるよりもさらに勘案したペースで授業が行われている様に感じとられた。今回の堀江先生の授業を参考に 1 年生(55 期生)には、授業内容の進展速度について精査が必要であることから今後の授業の内容について改めて精査する考えである。今回の堀江先生の授業参観は、今期の 1 年生を講義するにあたり非常に良い参考になった。

記入者氏名: 野志 昌弘

科目名:給食管理実習 I	担当者: 若林 一花 先生	参観日:2023 年 12 月 21 日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の能動的学修を促す試み(アクティブラーニング) <p>> 数回の授業に渡り、計画/見直し・試作といった工程を班単位でルーティンさせているように見て取れた。前回の授業内容が次回に直結することで自身が作成している/した課題についての理解が深まっているように感じ取れた。私も授業内容をレポート化させることを課題に設定しており、同課題を手元資料に許可した小試験を授業に取り入れているが、普段授業からより活用させる方法を考案する価値を見出せたまた、自身が行った試作の片づけを各班で完全に担当させることにより、時間的な猶予は失うが、受講生の授業に対する集中力ならびに責任感が向上しているように見て取れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT を活用した授業作り <p>> Google Classroom による参考資料の共有が行われていた。ホワイトボードによる紙面での掲示に加え、インターネット上に資料を提示することで手元での確認を可能としていた。この取り組みは、受講生が各自のペースで資料を振り返り学びを深められることから私も自身の授業に取り入れているが、当該授業では給食試作の完成予想(実物写真)もデータとして共有していた。私の授業では、実験で使う器具などを実物で提示していたが、可能であれば実物に加えて写真や動画などを共有することが理解を深めると共に実験中における不慮の事故の発生を抑制する作用があることをあらためる良い機会となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ユニバーサルデザインを意識したわかりやすい授業づくり <p>> 使用している実習室が広いこともあるが、学生個人が利用できるスペースが十分に設けられており、ゆとりのある学習環境が整えられているように感じられた。これに加え、実習は繋がりあう 2 教室に分かれて行われていたが、各教室に監督者となる教員が 1 名ずつ配置されおり、基本は受講生の自主性に任せつつも授業は進行していたが、的確な指示系統が成されていたように見て取れた。ユニバーサルデザインを考え実行することは、学習するため環境が充実していないほど困難であることは明白であり、まず十分な学習スペースを確保することが受講生各人の進度や練度などをリアルタイムで把握するために重要となることが授業環境を客観的に捉えることであらためて確認することができた。</p>		

記入者氏名: 堀江 大輔

科目名: ライフステージ栄養学	担当者: 森岡 美帆 先生	参観日: 2023 年 12 月 13 日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <p>参観した授業は 14 回のうちの 11 回目の授業で、Google Classroom、Google フォームやパワーポイントを用いた授業が行われていた。普段からこれらのアプリケーションを使用しているようで、学生も慣れた様子で授業に望んでいた。</p> <p>初めに、Google Classroom を通じて配信された前回授業内容に関する小テスト(Google フォーム)を実施していた。学生の回答送信後、リアルタイムで回答が集計されるという Google フォームの特性を利用し、誤答が多い問題の解説が実施されていた。その後の授業は、パワーポイントのスライドに重要点が映し、それを説明する形式で授業が進行されていた。</p> <p>また、「Google Classroom」上には、厚生労働省や各種学会のホームページが添付され、紹介されていた。これによって学生は、スライドでは見辛い細かな資料を手元で確認することができていた。</p>		

記入者氏名: 若林 一花

科目名: 生化学Ⅱ	担当者: 野志 昌弘先生	参観日: 2023 年 12 月 20 日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <p>・テキストの図に解説を加えたパワーポイントをクラスルームにあげられていた。学生は、テキストに書き込んでいる者や各自のノートにまとめながら記入していた。スライドで示されている図は色分けがされ、体内でどのような作用が起こっているか、何を意味しているものかなどの重要なポイントも書き加えられたスライドであった。スライドは非常にわかりやすく作成され、専門用語の意味を丁寧に説明し、日常のものに例えてわかりやすい言葉で解説されていた。クラスルームにスライドがあげられていることもあり、各自のスマートフォンやタブレットで確認ができることで、後ろの席でスライドが見えにくいなどの問題もなく、全員に伝わる方法であると感じた。さらに、授業以外でもテキストの解説が閲覧できるため、授業中に聞き逃さず、書き間違いなどが起こらない、欠席者への対応も可能である。また、テキストやノートに解説を書き込んでいることで復習時に各自で振り返りができ、自主的な学びにつながるのではないかと感じた。授業の方法や学生への伝え方など、とても参考になった参観であった。</p>		

記入者氏名: 薮下 春菜

科目名: 特別支援教育	担当者: 岡崎 先生	参観日: 2023 年 12 月 22 日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <p>まずは前回授業のレポートを返却し、フィードバックを行っていた。レポートには一人一人にコメントをつけて返却しており、学生は自分の視点が間違っていなかったという自信を得ることが出来たり、さらに踏み込んで考えるヒントをもらえたりできると感じた。</p> <p>今までの授業や他の授業で習ったことの復習等もところどころで織りまぜながら説明されており、学生</p>		

が大事なポイントを忘れないように思い出させる工夫がされていた。

保育科

記入者氏名: 井澤 正憲

科目名: 保育教職実践演習(幼稚園)	担当者: 小笠原 今西 渡辺 金谷 先生	参観日: 2023年12月11日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <p>映画「こどもかいぎ」の鑑賞。</p> <p>セシリアホールで2年生 A 組 B 組の授業で上映会が行われた。</p> <p>研究会でもよく話題になる映画で、年長の1年間に密着した作品であり、子どもたちが対話を通して成長していく様子がしっかり伝わる内容である。</p> <p>90 分の映画は 100 分授業で鑑賞するにはちょうど良い尺であった。</p> <p>事前に、映画の内容について多く説明しない事で、それぞれの視点で自由に鑑賞出来た。</p> <p>このドキュメンタリー映画は、保育士を目指す学生向けだけでなく、誰もが経験した事のある過去の自分と向き合った時間であっただろう。</p> <p>年齢や環境、それぞれの立場で何かを感じ取れたと思う。</p> <p>保育の現場に出る人間には、とても良い機会であったと思う。</p> <p>上映後も授業時間外で学生同士、映画について話し合っている様子を見られたのも良い機会であったと思う。</p> <p>授業での経験を通して、その後それぞれの経験に役立てる選択の一つとなったと思う。</p>		

記入者氏名: 今西 香寿

科目名: 子どもと言葉	担当者: 小滝 先生	参観日: 2023年12月11日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <p>この授業では、「こどもかいぎ」の映画の上映であった。保育現場の1年間の流れが描かれていた。動画を視聴することによって、講義だけではなく、講義内容の理解をより深めることができると感じた。また、鑑賞記録用紙も配布されており、より学生自身の理解を深めることができるような取り組みがされていた。</p> <p>今回の映画を視聴して、保育者の子どもとの関わりの仕方や子どもの前で話をするときのポイントなど、保育者としての振る舞いについても学ぶことができたので、他の教科との共有もすることができれば、よりいいと感じた。</p>		

記入者氏名: 小笠原 眞弓

科目名: 子どもと言葉	担当者: 小滝 正孝 先生	参観日: 2023年12月11日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p>		

授業担当者小滝先生の計らいで、映画「こどもかいぎ」が学内で自主上映され、学生とともに鑑賞した。

映画「こどもかいぎ」は、2018年に制作された作品で、子ども達が会議をする保育園を1年にわたり撮影したドキュメンタリー映画である。会議の場面での子どもの発言や保育者とのやり取り、対話を通じて子ども達が成長していく様子を描いた内容である。

学生達は、普段、授業等で学修していることが、生き生きとした子どもの姿と解説者の言葉で具体化できたのではないかと思う。また、鑑賞の時期も適切である。1年生は、先日初めての教育実習を終えたばかりで、実際の保育現場を体験し、子どもの姿に感動するとともに、新たな課題を抱えている者が多い中、その改善のヒントになる事例を映像の中で見つけることが出来たと期待したい。

将来保育者を目指す学生が、この映画を通じて子ども理解をさらに深め、対話の重要性と保育者の役割を再認識することが出来る、大変有効な授業内容であったと考える。

上映時間が長く、鑑賞後、話し合いの機会をもつことはできなかったが、学生達の感想を是非聞いてみたいと思った。

記入者氏名： 岡崎 満希子

科目名:教育実習指導 I	担当者: 小笠原 眞弓 先生	参観日:2023年12月8日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <p>学外実習において学生各自が経験し学んだ事柄を、仲間と共有、発表する授業であった。</p> <p>授業では、発表だけでなく、質疑応答や教員からのコメント等を通し、各人の体験が再度意味づけられる様子を見させていただいた。</p> <p>発表の仕方についての助言や、質疑の促しなどは、学生の理解度等に応じて必要であるということも、あらためて感じた。</p> <p>以上、自身のよりよい授業に繋げたいと思う。</p>		

記入者氏名： 小滝 正孝

科目名:教育実習指導 I	担当者:小笠原先生、金谷先生	参観日:2023年12月8日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習を終えて、振り返りの授業であった。8項目の振り返る観点を個人でまとめさせていた。個人作業に時間をかけることにより、後のグループでの共有に述べる事が準備されるとともに、問題意識が高まり、他者の振り返りを自分事として聞くことができているようであった。 ・グループについては、実習園単位でグループを作っていたが、欠席者がいるグループや一人での実習であった学生への配慮なされていた。 ・グループでの共有では、個人で振り返った8項目の中から、「実習内容」や「学びの内容」、「反省点」、「子どもへの気持ちの変化」の4点で話し合い、全体に共有することとされていた。初めての实習であり、 		

観点が細かすぎず共有しやすいものとされていたと思量する。

・グループでの話し合いは散漫になるきらいがあるが、全体を机間巡視し、共有内容を確認、中身をよくグリップされており、学生が気付きにくいような点をアドバイスしていた。

・発表においては、グループの代表ではなく、個々に話すこととしており、学生は緊張感を持って臨んでいた。発表内容で、もう少し深めたい観点については、教員が質問し、学生の考えを引き出す形で進められていた。強制や押し付け、答えありきではなく、発表者ともども全員で考える学修となっていた。

・学生の発表は、実習で経験した具体例を挙げ、それについての反省や保育に対する考えを一般論として述べるものが多く、聞いていて分かり易いものであった。担当教員が授業参観者にも質問がないか尋ねてくれたので、前述のような発表の構成の優れている点を褒める形で、後の発表者に意識付けをした。

記入者氏名： 木村正徳

科目名：保育・教職実践演習	担当者：小笠原・今西・渡辺 金谷 先生	参観日：2023年12月18日
---------------	------------------------	-----------------

参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。

ゲストティーチャーの山本玲子先生の「現場が求める保育者像」と題した講義であった。講義の内容もさることながら、導入の大切さを改めて考えさせられる講義であった。学生の興味を引くような文献の一節を用い、導入としながら、そのまま自然と講義に入って行かれた。学生により講義内容への興味に差があったり、講義が始まった早々から講義に集中していない学生が見受けられる。実習を伴う講義より、座学を中心とする講義にその様な傾向が強いように思う。学生を講義へ集中させようと、話し合い活動(アクティブラーニング)など使い工夫はしているが、講義の導入部分のもって行き方の工夫も、講義の流れの中では大切な部分を占めていると改めて考えさせられた。

また、具体的な事例を上げながら困っている子への対応や、四月からの心構えについて話されていた。学生もよく聞いていた。具体的内容を用いながら、より分かりやすく学生に伝えることはとても重要であるが、守秘義務を伴うため、どこまで具体的なことを話して良いのか迷うことが多々あった。しかし、より分かりやすい講義を考えると、具体的内容を用いた説明は欠かせない。守秘義務を守った上での具体的内容について考えながら、学生に分かりやすい講義内容を提供していく工夫が必要であると改めて考えた。

記入者氏名： 桑原 徹也

科目名： 子どもと言葉	担当者： 小滝 先生	参観日：2023年12月11日
-------------	------------	-----------------

参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。

「子どもと言葉」は、子どもの言語発達をふまえ、子どもの言葉によるコミュニケーションを理解する科目である。本時の授業では、保育科 1 年合同で映画「こどもかいぎ」の自主上映が実施された。本作品

は子どもたちが「かいぎ」をする保育園を 1 年間に渡って撮影したドキュメンタリー作品である。対象となる学生は、2 週間前に幼稚園実習を済ませたところであり、実習期間では感じ取れなかったであろう子ども達の詳細な表情や言葉、表現を熱心に観ていたことが印象的であった。VTR を通すことで客観的に子どもの様子を観察することができ、また、他の授業や活動との連動性が考慮されることで学生の学修意欲を高められていた。

記入者氏名： 渡辺 直人

科目名:子どもと言葉	担当者: 小滝先生	参観日:R5 年 12 月 11 日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <p>今回は、小滝先生の「子どもと言葉」(保育科 1 年生、後期月曜日)の授業を参観した。</p> <p>本授業参観で、さまざまな利点・課題を知ることができた。</p> <p>まず、今回の授業では映像を用いて授業を行っていた。</p> <p>利点として、映像を使った授業は、講義のみの授業形式とは異なり、新たな視点から学ぶことができていると感じた。</p> <p>画像・映像から情報を捉えることで、視覚的な理解が向上し、聴講だけでは至らない部分の理解が得られていたと感じた。</p> <p>また、視覚的な要素を授業に取り入れることで、理論だけでは得られない実践的な知識を得ることができていたと感じた。</p> <p>ただし、今回は時間が限られていたため、できなかったのであろうが、意見交換や質疑応答を取り入れることで、個人の理解が深まると感じた。</p> <p>加えて、ディスカッションの機会を得ることで、他の学生の視点や考え方を知ることができ、より深い学びが期待できると感じた。</p> <p>他、映像を取り入れる授業は、集中力を維持することが課題となると感じた。</p> <p>映像の授業では、自分のペースで行動することが難しく、他のことに気を取られてしまうことがあると考える。</p> <p>全体として、ビデオ授業の利点と課題が明確に感じられた、有意義な授業参観になったと考える。</p>		

記入者氏名： 金谷 有希子

科目名:子どもと言葉	担当者: 小滝先生	参観日:2023 年 12 月 11 日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <p>参観時、映画「こどもかいぎ」の自主上映会を企画された授業回であり、大画面のスクリーンで映画が上演された。「こどもかいぎ」は、子どもたちが会議をする保育園を 1 年間に渡って撮影した 90 分間のドキュメンタリー映画で、参観授業の「子どもと言葉」の内容と大変関連づくものであり、対話することや子どもの声を丁寧に聴くことの重要性について考えさせられる内容であった。視聴覚教材からダイナミックに</p>		

伝えられる情報は、学生たちの心に様々な形で響くものがあったのではないかと感じる。教育実習を終えた学生たちにとって、実習中の自身の言動や子どもの思いを聞き入れる姿勢を省みるきっかけになったのではないだろうか。また、ただ観るだけでなく鑑賞記録を付けるよう授業冒頭で伝え、後日提出する形をとっていた。個々の学生が映画を鑑賞し、どのような受け止め方をしたのか確認できるようにされていた。

教育効果を高めるため、学生の学習理解促進に有効と思われる視聴覚教材を選択・活用し、授業に取り入れられており大変勉強になった。

記入者氏名： 桜井 裕子

科目名：消費生活論	担当者：雨夜 先生	参観日：2023年12月15日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <p>アクティブラーニングやICTの活用はなかったが、「ユニバーサルデザインを意識したわかりやすい授業づくり」という観点では、ひとつひとつの言葉を、例えを交えながら、丁寧に説明されていたので、大変わかりやすかったため、説明時には丁寧さを大切にしたいと感じた。</p> <p>また、100分でスライド24枚という内容量は大変良く、レジュメ(A4用紙にシート2枚)もとても見やすいものであったため、講義の際に意識してみようと感じた。</p>		

記入者氏名： 仲谷 徹子

科目名：保育実習指導1A	担当者：金谷先生、桑原先生先生	参観日：2023年12月19日
<p>参観を通して気付いた点を、自分自身の授業改善につなげるという観点で記述下さい。</p> <p>実習参加についての説明内容と、実習テーマをどのように進めていくのか2項目の授業内容であった。</p> <p>100分の授業中、集中力が低下する学生は一人もなく最後まで一生懸命メモを取りながら受講していた。</p> <p>プロジェクターの表示内容は実際の用紙の写真が使われていたり、時間差で写しだしたり、よりわかりやすい工夫がなされていたと思う。</p> <p>学生は、100分近く集中して聴いていた。</p> <p>最後に、実習テーマのレポートを書くように説明されていたが、実習参加について気を付けることに集中していて「テーマ」を考える所まで至っていないようであった。</p> <p>しかし、担任としてしっかり授業を受けている様子を参観出来て有意義に感じた。</p>		

IV. 授業評価とティーチングポートフォリオ

1) 授業評価

前期7～8月、後期1～2月、授業の最終回に、オンラインによるアンケート形式で実施
担当教員は、A-ポータルを通じて授業評価の結果を確認できる。

アンケートの集計結果は2023年度教学IR報告書に掲載

2) ティーチングポートフォリオ

目的：本学のティーチングポートフォリオは、教員のティーチングに関する優れた知識を共有し、広く発信することにより、本学における教育方法の改善に資すること目的として、実施するものである。

対象教員：助手を含む全ての専任教員

作成されたティーチングポートフォリオは、2023年度和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオとしてまとめ、HPにて公開する。

3) 様式:

2023 年度 和歌山信愛女子短期大学ティーチングポートフォリオ

提出日	
所属	
氏名	
役職	

I. 【教育の責任(何を行っているか)】

① 担当授業科目(全ての担当授業を記載)

科目名称	学科・ 専攻	配当 年次	開講 期	必修・ 選択	単位 数	週担当 コマ数	週担当 時間数

② 担任業務

担任業務の有無	担人・副担	担当学科・専攻	学年	クラス
有・無	担・副	生・食・保	1・2	A・B

③ 委員会等の活動

委員会等の名称	役職
	委員長・委員
	委員長・委員

④ その他の教育活動(免許・資格・公務員対策講座、公開講座、生涯学修支援等)

教育活動の名称	実施日(期間)

⑤ 本学以外での教育活動(非常勤講師、学外講演、委員会活動等)

勤務先(又は委嘱先)	教育内容

--	--

II. 【教育の理念(どのようなかんがえにもとづいて行っているか)】

建学の精神	<p>本学の建学の精神は、「幼きイエズス修道会」の創立者レーヌ・アンティエの「マリアにおいて幼子となられた神の愛の秘儀を世に示すために、愛と信頼をもって神と人々のために生きる人を教育する」という教育理念に基づいている。信愛の名は「神を信じることは、人を信じ愛すること」に由来し、人を信じ、愛することの尊さ大切さを「ひとつの心、ひとつの魂」の言葉に込め、これを建学の精神としている。</p>
信愛教育理念	<ol style="list-style-type: none"> 1. キリストの教えに根ざした教育 2. 一人ひとりを大切にする教育 3. 能力の開発を目指す教育 4. 自己形成を促す教育 5. 社会貢献への態度を形成する教育
全学	<p>本学は、教育基本法および学校教育法の下に、カトリック精神に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、職業または实际生活に必要な能力を養成するとともに、高い教養と豊かな人間性をもって社会に貢献する女性を育成することを目的とし使命とする。</p>
学科・専攻	<p>【生活文化学科生活文化専攻】 建学の精神に則り、生活に関わる幅広い知識と技能を養い、感性豊かで創造的なデザイン力を培い、地域と社会に貢献できる自立性を有する人材育成を目的とする。</p> <p>【生活文化学科食物栄養専攻】 建学の精神に則り、食生活を通して人々の健康を維持増進することに関与できる、専門の知識と技術を兼ね備えた栄養士の養成を目的とする。</p> <p>【保育科】 建学の精神に則り、愛と奉仕の精神を基盤とする人間形成に努め、現代社会に適応する保育の知識と技術を有する専門保育者の養成を目的とする。</p>
個人	

III. 【教育の方法と成果】

① 授業における方法と成果

担当科目名	教育の方法 (授業改善の取り組みを含む)	成果 (授業評価の結果とその評価)

② 授業以外の教育活動における方法と成果

--

IV. 【今後の目標(次年度に向けた改善計画)】

① 授業における次年度の目標・改善計画

--

② 授業以外の教育活動における次年度の目標・改善計画

--

V. 【根拠資料】

- ・ ○○年度 シラバス
- ・ ○○年度 授業評価アンケート結果
- ・ ○○年度 和歌山信愛女子短期大学教学 IR 報告書
- ・ ○○年度 和歌山信愛女子短期大学役職(学務分掌)
- ・ ○○年度 和歌山信愛女子短期大学組織図

4) 専任教員のティーチングポートフォリオ

別紙にて記載。